



特集

使わなければただの紙
使いこなせば守りがみ

竜巻・突風の仕組みを知り、身を守りましょう

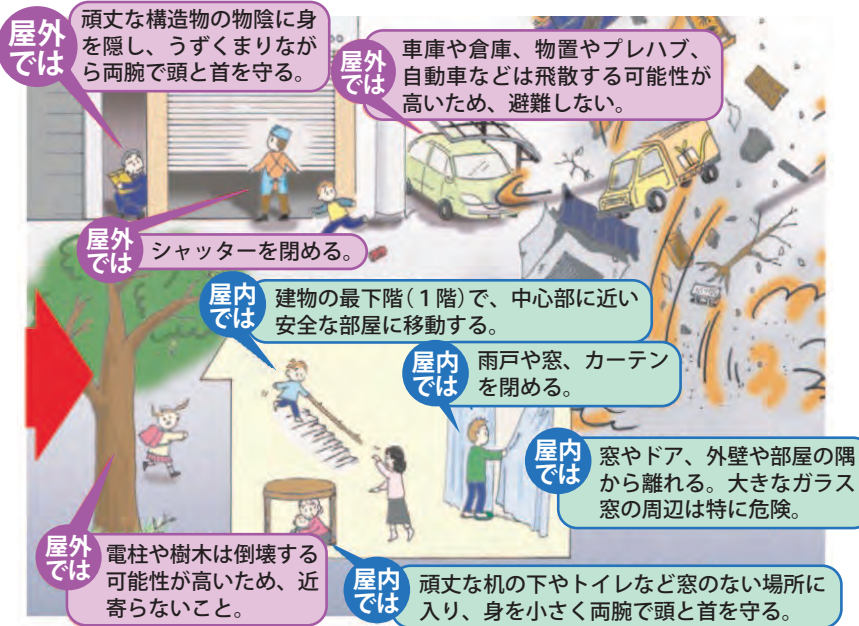
5月1日(土)午後7時前、菊川市沢水加から牧之原市布引原付近にかけて、竜巻が発生しました。風速はおよそ55メートルと推定され、市内でも家屋などに被害が発生しました。竜巻は突然発生し、短時間で甚大な被害をもたらします。竜巻が発生する仕組みやとるべき避難行動、気象庁から発表される気象情報を知り、自らの身を守りましょう。

竜巻が発生する仕組み

- ①上空の冷たい空気と地上の温かい空気がぶつかり、積乱雲が発達します。
- ②発達した積乱雲が接近すると、急に冷たい風が吹き始め、雷や雹、急な大雨が発生しやすくなります。
- ③積乱雲は次第にろうと状や柱状の黒い雲に変わり、接近すると物やごみなどが巻き上げられ、竜巻が発生します。



竜巻が発生した際にとるべき避難行動



竜巻注意情報が発表され、空が急に真っ暗になる・大粒の雨が降り出す・雷の音が聞こえるなど、積乱雲が接近する兆候が確認された場合には、左図を参考に身の安全を確保する行動をとるようにしてください。

気象庁の防災気象情報は、テレビやラジオで確認できます。気象庁ホームページでは、全国の竜巻発生状況や雨雲の動きなどを随時更新しているのでご覧ください。



住まいが被害を受けたら写真を撮りましょう

住まいの片付けや修理の前に、まずは家の被害状況を写真に撮って保存しましょう。市から罹災証明書や被災証明書を取得して支援を受ける場合や、保険会社に損害保険などを請求する場合に役立ちます。

問い合わせ 税務課資産税係 (☎35-0913)

罹災証明書と被災証明書の発行

罹災証明書と被災証明書は、暴風や豪雨、地震などの自然災害により、所有する住家などが被害を受けた場合、被害の程度などを証明するものです。発行された証明書は、保険金や税控除などの手続きに必要な場合があります。申請前に、必要とする各関係機関へ確認ください。